



**子**どものころ、粘土遊びをした記憶はありませんか？クレイとは粘土のこと。油粘土や紙粘土はひんやりしていて、ずっしりと重いイメージですが、クレイアートでは伸びと強度があり、乾けば軽くなる性質を持つ石粉粘土を使います。ここでは誰もがプチアーティスト。夢いっぱい作品作りに取り組む、クレイアートサークル『華』を紹介します。

作品を作り出す道具類は、繊細なものづくりとはかけ離れた、がっちりとした工具箱に収まっています。伸ばし棒、細工はさみ、ボンド、葉型、色付けには発色が良く、色あせしにくいアクリル絵の具を、そして仕上げにニスを使います。作品は花、果物、髪留め、ブローチなど。ありふれた市販の鏡などに飾り付ければ、オリジナル作品へと華やかに変身します。誰もが最初は作り上げられるか不安になりますが、だんだんと手が動くようになっていくのです。

まずは作りたいものを決め、一つひとつのパーツ作りから取り掛かります。一つの花を作るためには、何枚もの花びらが必要で一枚一枚丁寧にこしらえていきます。葉は、型に載せて細かい葉脈をう

# サークル CIRCLE ZUKAN 鑑

## 第32回

### クレイアート(粘土工芸)サークル『華』

- ①活動歴 6年
- ②年齢層 30代～50代の女性
- ③活動場所 コミュニティプラザ
- ④活動時間 毎月第1・3土曜日  
12:00～17:00
- ⑤代表者 五十嵐秀子(いがらしひでこ)
- ⑥連絡先 ☎82-5524

つし取り、その後、はさみでアイビーやバラなどの葉形に切ります。余った粘土は、水分を含ませれば再使用が可能です。無駄にはなりません。続いて、それぞれのパーツを重ね合わせ、作品全体を組み上げて乾燥へ。粘土は乾くまでに形が少しずつ変化してしまうため、自宅で乾かす間に微妙な調整が必要とな

ります。このように作品の面倒を見ることは、大切な作業の一つです。粘土が固まったら色を付け、ニスを塗って完成。難しいのは、硬く固まる粘土で、いかに繊細な柔らかさを表現するかなのです。

良いものに出会えた一。自分の時間が欲しいと思っていたメンバーにとって、クレイアートは「最高の生きがい」です。始めたころは2～3ヵ月だった制作期間が、最近では大作に挑戦するようになり、1年がかりになることも!! 結婚式のウェルカムボードを頼まれたり、理容組合の文化祭に出品して審査員賞を受賞したりと、その腕前を上げているメンバー。

この3月11日から16日まで、成田市の米屋本店2階ギャラリー(10:00～16:00)にて展示会を開く予定です。美しい作品の数々を、ぜひ皆さん見に来てください。



## 編集 後記

★1月6日、多古町で209名が成人式を迎えました。色とりどりの艶やかな振り袖や真新しいスーツに身を包んだ新成人の皆さんは、久しぶりに会った同級生や恩師の先生と談笑したり、記念写真を撮ったり、堂々とした「二十歳のことば」を発表したり。そんな式典を取材として、フツと思いついたのは昔の自分★体重も顔の大きさも今の半分ほどだったことが、成人式を迎えたのは平成元年1月のこと。当時は、親のスネをかじりながら学生生活を謳歌し、その楽しい時間が永遠に続かないものかと願っていたものです。また一方では、信念を持って仕事に打ち込むサークルOBなどの姿を目にするようになり、社会に出ることへの憧れも徐々に芽生え始め…。『将来の自分の姿』を何となく探り始めた時期でもありました★あれから19年。新成人より親御さんの方が年代的に近くなり、いよいよ今年は…。『あの頃の自分が見て、がっかりしないようなオジサンに!!』を「四十歳のことば」として、心に誓ったのでした★今年のお正月はお天気にも恵まれ穏やかでしたね。年末は強風が続き、大掃除はおろか、干した布団や洗濯物が飛ばされた大変でした★私の場合、あそこもこもやらなきやという大掃除の脅迫観念めいた気持は、新年を迎えた途端、きれいさっぱり無くなります。電気カパーに入り込んで息絶えた虫の影も正月だし、まあいつかてなことにあひなりませ★さて、今年の初取材は消防出初式。文化ホールに集まった消防団員は若い男性ばかり。なるべく目立たぬよう、会場の後ろでちゃんまり待機している、懐かしい同級生の姿を発見。他愛もない話で緊張も和らいだ時、ふと感じた視線★最後列に座っていた何人かが振り返りこちらを見ていた。その目は明らかに「何だ、おばさんかヒーム。気付いた私が視線を向けると、いけないものでも見てしまったように、さっと前に向き直った。『声は女(おばさん)でも中身は立派なおじさんなの!!』そう叫びたかった初取材でした